

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年三月度 入選句（投稿総数千三百七十句・一般投句数三百九十九句）

特選

春の雪 爪革 紅き宿の下駄 岐阜市 田中 淳子

旅先の宿で春の雪が降って来た。その明るさに、そぞろ歩きがしなくなった。雪国であろうか玄関には爪革（雨・雪降りなどに下駄の爪先を覆って汚れを防ぐ用具）の付いた下駄が用意されていた。爪革の紅、雪の白の取合せが印象的である。

二駅をこくりこくりと梅日和 三重県四日市市 後藤 允孝

晴れ渡った空、咲き誇る梅。外出には持つて来いの日だ。電車の中で居眠りをしてしまった。でも、目的の駅ではなぜか目の覚めるものである。二駅の時間感覚が句にぴったりとしている。

啓蟄や含み笑ひの憤怒佛 大垣市 伊藤 英司

あの恐ろしい憤怒の形相の中に微かな笑みを発見したところが面白い。
啓蟄（冬ごもりの虫がはい出る）の頃となり、生物の生命力を感じた憤怒仏も作者も思わず類笑む。

秀逸

いつだつて無敵の母や納豆汁	東京都世田谷区	関戸 信治
蹴とばされ輝き増せり霜柱	大垣市	松岡 みつ
飛石を踏めばひとつは春の音	埼玉県川口市	木下 洋子
梅が香をまといて来たる尼僧かな	不破郡垂井町	川瀬 慶泉
春光や城より高き新庁舎	大垣市	小林 研
鬼の手を引きて豆蒔く園児かな	大垣市	村田 通夫
達筆の案内板や探梅行	神奈川県川崎市	佐藤 廣枝
臍繰りは御内裏様の膝の下	三重県鈴鹿市	松井 政典
朧月プリンの好きなやつが来る	宮城県名取市	松本 裕子
立春の大樹に鼓動生まれけり	神奈川県横浜市	龍野 ひろし

入選

辞書引けば辞書に一すじ木の葉髪	愛知県額田郡	平松	京師
いずれ野へ戻る畑を耕せり	東京都世田谷区	関戸	信治
春景色どの水となく光り合ひ	愛知県名古屋市	舘野	茂子
うすらひやその一言をためらへり	養老郡養老町	田中	紫香
紅梅の色濃くなりて別れの日	大垣市	北島	暁子
食い初めの漆の椀や春隣	安八郡安八町	牧村	こずえ
菜の花の明るさ壺に溢れしめ	大垣市	日比野	友子
そはそはとバレンタインの日の老僧	大垣市	傍島	隆
淑女にはほど遠き児の雛祭り	大垣市	高津	喜久子
節分や隣る鬼とも笑ひ合ひ	不破郡垂井町	川瀬	慶泉

入選

一字づつ春呼びよせる写経かな	不破郡垂井町	竹嶋	富美子
御岳に掛かる雲なし土筆つむ	不破郡垂井町	久保田	絃義
春川の朽杭あたり魚影濃し	不破郡垂井町	西田	厚堂
碧落の天の窓より春の雪	大垣市	伊藤	鈴子
野遊びの肺の奥まで空匂ふ	神奈川県大和市	岩田	爾瑠
鼻光る天狗の面や日脚伸ぶ	愛知県名古屋市	岩田	遊泉
マスクさえおしゃれグッズやJKは	加茂郡八百津町	新井	悠
泣き出す子つられて泣く子も卒業す	養老郡養老町	松永	智志
春の陽を背なにおぶって帰る道	福岡県田川郡	成松	義紀
二歳児のオウム返しや日脚伸ぶ	大垣市	平野	ヒサエ

選者吟

春場所のぶつかる音や無観客

武直